

手をつなごう2008

平成20年6月23日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 5

中学校のコーディネーターに期待すること



先日、中教研和気・瀬戸内支部特別支援部会が本校で行われました。その中で、本校中学部の田中教務主任が「中学部の教育について」、浦池コーディネーターが「中学校のコーディネーターに期待すること」と題してお話をさせていただきました。

ここでは浦池コーディネーターがお話した内容について概略をご紹介します。

まず、中学校のコーディネーターに**果たして欲しい役割**として次の5つを挙げました。

校内委員会の推進役

学校状況のアセスメント

子どもの理解・教職員の意識

校内のリソース

保護者・教職員の相談窓口

保護者・教職員の声に耳を傾けその状況を把握し
支援につながる次のステップへ導くための力

関係者・関係機関との連携・調整役

ネットワークの構築役

情報収集・活用の技能 支援する力

ファシリテーション技能

人間関係を調整する力

教育的支援充実の推進役

障害についての知識

個別の支援計画・個別の指導計画の知識
教科指導や学級経営に関する知識・技能

そして次のようなお話をしました。

大切なのは人間関係の調整能力

- ・誰とでも仲良くではなく、適度に聞き上手になりながら相手を引き出していく
- ・お互いに尊重し合いながら次の支援を考えていく
- ・言いにくいことでも「オブラートに包んで」さらっと言う
- ...もちろん初めから全部求められることはありません

初めから全部できなくても大丈夫

- ・知識は勉強すれば入る
- ・子どもと接すれば知識は厚くなる
- ・新しい情報 = これまでのやり方に付加する形で
- ・中学校...今まで中核になってきた先生方を中心に
- ・仲間意識・自己肯定感を教員自身が持ち、子どもたちにやさしさと寄り添いを

また、**連携の基本**として「校内体制と子どもへの支援の工夫」を挙げ、

「誠意のある教育活動を」

「子どもの学力状況の把握を」

「教科指導から子どもの自己有能感を高めよう」

「問題行動ばかりでなく、子どものよいところやがんばっているところなどから、子どもの全体像を捉えよう」などの提案をしました。

次号に続きます